

国際探究Ⅰ「教養講座Ⅰ①～③」

- (日時) 平成27年5月14日(木) 21日(木) 28日(木)
- (場所) 本校大体育館 小体育館 柔道場
- (対象) 1年生全員
- (目的) 基調講演で世界の食糧問題について知った上で、自分たちの足元である郷土秋田の農業と食糧の問題を見つめる。
- (内容) 日本や秋田の農業と食糧をめぐる現状と課題を把握する。
- (講師) 講演 秋田経済研究所 松渕 秀和 所長 「秋田県及び日本の現状と課題」
講座A 同 佐々木 正 研究員 「農業について」
講座B 同 相沢 陽子 研究員 「食文化と観光について」
講座C 同 佐藤由深子 研究員 「食文化と商業について」
- (日程) 5月14日(木)
講演 14:40～15:40
質疑・振り返り記入 15:40～16:00
5月21日(木)
各講座 14:30～15:30
質疑・振り返り記入 15:30～16:00
5月28日(木)
各講座 14:30～15:30
質疑・振り返り記入 15:30～16:00
- (方法) 本校大体育館で講演を聴講する。
講座A～Cの三つの講座から二つの講座を選択受講する。

【生徒の振り返りから】

- ・食と農について研究を行うとき、私は秋田らしさを大切にすることがカギとなると思いました。しかしそうすると世界規模での問題解決には活かせないので難しいです。各国で取り組める活動の型となるものを秋田バージョンで考え、活かしていけるものにできればいいです。
- ・今までと同じ考え方や同じことをしては、いつまで経っても解決しないということです。
- ・秋田は大変自然が豊かでそれを利用しない手はないはずですが、いつまでも、これはダメあれもダメでなく動くべきです。今自分たちは少しずつ動いているので、様々な疑問が浮かんでくるのです。そして

その疑問を解決するために経験、実践、反省そして再び動き出す、長いスパンで見るのが大事だと学びました。

- ・グローバルな考えをするには、まず地元のことや日本のことを良く知ることが大切だと思います。
- ・自分は日本、秋田が好きなんだと感じた。なぜなら良い点を聞くと素直に嬉しいし、問題点を聞くと自分がどうにかしなければいけないと思うからだ。また日常生活の中でも日本、秋田だけでなく世界のことについて考えるようになった。教養講座で習ったことを親に説明して、一緒に考えたり話し合うという時間も増えたので、すでに人に影響を与えてきていると感じた。・・・そもそも根本的なことだが、人口が減少することや少子高齢化、6次産業化ができてないことはすべての人にとって“悪いこと”なのかという問いがでてきた。
- ・食糧問題という1つの問題に対して・・・様々な問題が結びついて負の連鎖がおきて今の現状になっていると考えました。・・・発想を変えると様々な視点で調査しても食糧問題解決の道筋は見え、調査していく中でたくさんの可能性があるのではないかとということです。
- ・問題をあえて利用するというのは他の様々な問題にも言えることではないかと僕は考えました。だからこれからは問題をただ問題として考えるのではなく、そこに何か利点はないかといったふうに視点を広く考えるようにしたいです。
- ・問題を解決するには地道な努力が必要であり、世界と地域を多角的に見ることが大切である。日本に生活しているだけではわからない国際感覚を少しでも身につけながら、自分で考え、行動できる人間にならなければいけないと思った。この考察で自分が感じたのは世界を変えるカギは身近にあるということ。
- ・やはり何かやるにはメリットとデメリットが絶対にあり、互いが支え合うようなシステムをつくるのが大切だと思います。
- ・すべての問題はつながっているんだなと思いました。つながっているからこそ、1つの問題を解決するのがとても難しいのだと思います。



